



### 三ノ沢(仮称)

1987年8月15日

9:05遡行開始。出だしは平凡な河原である。10分程歩くと15mの滝。右岸を高措くが、一の沢(仮称)の時と同様、樹林帯の中でありながら、岩登り同様の登りである。ひと登りして傾斜がややゆるくなったところでルンゼを渡り、滝の上に降り立つ。千歳川流域の沢は、いずれも滝の高掛きが大変のようである。

滝の上はやはりナメ。源頭までずっと続く。まず川原があり、滝が出てきて、そしてその上はナメというのが、ここあたりの沢のパターンのようである。

ナメを20分程登った所で、沢はもう細い凹地にすぎなくなり、水流も消える。遡行終了10:05。(新)

[タイム] 出合(9:05)→遡行終了(10:05)

### 四ノ沢(仮称)左俣, 右俣

1987年8月15日

10:25下降開始。細い凹地を進むとナメとなる。ここも源流はナメというパターン。特にどうということもないまま25分下ると二俣。ここでちょっと寄り道して右俣をつめてみることにする。

右俣もやはりナメが続く。ナメが終るころには、沢はもう細い筋状の流れにすぎなくなっていた。出合から15分で遡行を打ち切って、二俣まで引き返す。

二俣まで戻って、再び下降を続ける。依然ナメが続く。左右から合流する支沢も全てナメ沢である。いやになるほどのナメ歩きである。

11:30前方がスッパリ切れ落ちて滝。やはりあったという感じである。左岸にすてなわがあって登ってきたパーティが使ったようである。私はザイルを

